



清水事業所

清水事業所はヘルパーさんとスタッフで総勢 60 人以上在籍しています。労働安全衛生法により常時働く人が 50 人以上いる事業所は毎月衛生委員会を開催することや必ず産業医を置くことが義務付けられており、清水事業所では田村内科の田村憲先生にお願いしています。専門的な立場から助言、指導を受けるとともに、「利用者さんも私たちが浮腫みが気になるね」「自律神経のことを知りたいかな?」「物忘れについて聞いてみたい」など病気のことや生活の中や、話題になっていることを先生にお願いして1時間くらいの講義をしていただいています。「あ!そういうことなのか」という知識を増やしていきたいと思ひます。

富士事業所

2月7日共栄火災の方に来ていただき、事業所のスタッフの交通安全講習を行いました。座学を30分聞いた後、自己診断シートの「ドライバー安全レベルチェック」を記入して判定を出しましたが、予想外の結果に大盛り上がり。引き続き、順番に一人ずつ20分の運転操作検査をしました。2015年に実施した時は車両を使ったハイパーマックスで運転適性診断を行いました。今回は機材を机に乗せて行うタイプのもので、ハンドルが小さく、足元のアクセルとブレーキを力強く踏み込むと動きます。思っていたより不本意な診断結果が出てしまいましたが、今後の運転に活かすことが大切だと前向きにとらえて頑張ります。



定例理事会 2月21日(金)協議事項

- ①文書管理規程の改定
- ②異動に関する承認
- ③2020年度嘱託雇用者の承認
- ④東日本大震災復興への寄付

1 月度活動結果報告

ヘルパー会員数	454 名	実働数	392 名
事業	活動時間数		
くらしの助け合い	2744.75 時間		
介護保険 訪問系サービス	5446.50 時間		
障害福祉サービス	1749.75 時間		
居宅介護支援	要介護	総合支援	
	533 名	249 名	
施設名	開所日数	当月利用者数	利用者数/1日
どうぞの家	24 日	17 名	6.29 名
夢コープふじ	24 日	22 名	8.79 名
夢コープいた	16 日	39 名	9.13 名

ヘルパーさんのおすすめ本

58歳から日々を大切に小さく暮らす



ショコラ 著 すばる舎

60歳でブログ「60代一人暮らし大切にしたいこと」を始めたショコラさんは、シニアブロガーとしては異例の人気者となり、この本の出版に繋がりました。「一日一捨」をスローガンに「老前整理」をして、慎ましくも工夫して楽しむ生活を、たくさんの写真やイラストを入れて紹介しています。最後の章の「今ある毎日を積み重ねていくことが老後につながる」という言葉が印象的です。

交通安全スローガン
まず一周 愛車点検 安全運転

2020年3月

3月になりました。各地から花の便りが届き春の訪れを感じます。一方、今年はいつにも増して感染予防が注目を浴びています。ご利用者宅訪問時や帰宅時には必ず石鹸での手洗いを励行するようお願いします。

先日、眼科受診をした際、「この人とてもいい感じだな」と思う検査の方に会いました。今までの検査の方も決して悪い印象ではなかったのですが、その方にはとても親しみを感じました。こういう時、「何がそう感じさせるんだろう。」とつい考えてしまいます。視力検査を進めていくと下の方のランドルト環の切れ目が老眼の私にはぼやけてきます。「これは？」と聞かれたときに、「う〜ん、下」とか「なんとなく右」と返すと、その検査の方は

「う〜ん、下ですね」「なんとなく右ですね。当たり」など私の発した言葉を同じようにつけて相槌をうち、検査を進めていきます。この対応が、今までの検査の人にはなかった話し方でした。私は、自分の発したのと同じ言葉を耳で聞くうちに、親近感を感じ、自分のリズムで対応してもらっている心地良さを感じていたのです。「オウム返し」という話の聞き方です。

5分に満たないほどの単純なやり取りの検査ですが、私はこの人に親しみを感じ、いつもはしない検査の質問までしていました。相手に親しみや心地よさを届けられる対応は私たちの仕事でも基本です。皆さんはご利用者の話を聞く時、どんな工夫をしていますか。

副理事長 杉井初世

「市民交流まつり in はーとぴあ清水」に参加しました。

今年で20周年を迎えた「静岡市清水社会福祉会館はーとぴあ」(JR清水駅から西へ徒歩7分)で、2月2日(日)「市民交流まつり」が開催されました。夢コープニュースやパンフレットをお渡ししてアピールするなど、来場者や市内で活動しているボランティアグループ、福祉施設の方々と交流をしました。出会いやふれあいの場です。録音ボランティアの体験、子供さんが障害を持つ親御さんの想いも聴かせていただき多くの方々との交流が持てた貴重な一日でした。

夢コープの総会に毎年ご出席いただいている「サポートセンターそら」の山本様に、当日お会いできました。山本様は「今回は実行委員長!まとめ役は大変」とおっしゃりながらも笑顔が素敵でした。清水の市民活動が盛んなことに驚きました。鈴木逸子





心の支えにしている事ありますか？

あなたには心の支えがありますか？辛い時、何か心の支えになるものがあるれば、それを支えにして頑張ることが出来ます。自分が頑張ろうと思える心の支えにはどのようなものがあるでしょう？

心の支えとは

生きていくためのエネルギーなどになる大事な物や出来事、存在、人（家族、有名人、憧れの人等）を言います。

心の支えになるもの

- 自分が大切に思っている人、物、思い出等
- 迷った時の一步を踏み出せる勇気の出るもの
- 今までの成功体験や自信を持てるもの
- 人に何を言われても揺るぎないもの
- 自分がコツコツと積み上げたもの



心の支えが欲しくなる時

- 辛い事があって精神的に不安になっている時
- 不意に孤独を感じた時。孤独は突然やってきます。
- 余裕がない時（心の余裕、時間の余裕、お金の余裕）

心が疲れた時、そこで一步立ち止まり「何で心が疲れているのか」「何で癒されたいのか」自分らしい心の支えを見つける時間をつくることも大切ですね。

ヘルパー&スタッフへアンケート

あなたの心の支え、何ですか？



災害時の支援 在宅療養の難病患者の場合



隣近所の方々のマンパワーが活躍！！

1月23日（木）東部保健所地域医療課が主催する研修会において、沼津事業所のケアマネジャー（上枝）が、在宅療養難病患者の災害時の支援について講師を務めました。テーマは「人工呼吸器をつけた利用者と社会資源の活用」です。



<ご利用者宅での出来事です>
昨年10月の台風19号の際、隣の方が「近くの福祉会館が避難所になったから避難する？」と奥様に声をかけてくださいました。雨もひどくなっていたので、ヘルパーと奥様が協力してご利用者を2階からリフトで降ろし、車に乗って避難所へ向かいました。避難所は和室でベッドはありません。停電した場合に備えて、発電機も持参（発電機は、長泉町から提供されており、いつでも使える状態になっています）。また、6月に新しい呼吸器に変えてから初めての外出だったので、呼吸器の管理会社の担当に電話をしたら、すぐに避難所

へ駆けつけて設置も手伝ってくれたので心強かったそうです。ご利用者の胃ろうの食事（夕食と朝食）と介護者の食事（おにぎり）や水、毛布、吸引器など運びました。6時間後の夜9時ころに「雨が止んだよ」と隣の方が報せてくれたので、手伝ってもらって自宅に戻りました。水害が起きることもなく、無事に自宅へ帰れたのでよかったということです。

今回の災害時の対応の中で、最も活用された社会資源は隣近所の方々の「マンパワー」です。普段からご利用者や介護者などの様子を見ていて、避難訓練にも参加されていました。介護・医療・行政はもちろんのこと医療機器関連担当者、そして、今後も近所の人々、区長や民生委員などに在宅で療養していることを日頃から詳しく伝えて、知ってもらうことが大切だと感じました。

日本は災害大国と言われ、温暖化に伴い今後も災害は増える可能性があります。難病患者に限らず、ご利用者の中には在宅酸素の機械を使っている方、介護用ベッドやエアーマットなどを使用している方はたくさんいます。私たち一人ひとりが地域の要支援者について関心を持ち、人のつながりを高める努力をしたいですね。

上枝 淑江